令和７年９月２５日

泉南市議会議長

　　堀口　和弘　様

泉南市議会議長　　堀口　和弘

泉南市議会副議長　　石橋　正敏

泉南市議会まちづくり等成長戦略調査特別副委員長

谷藤　麻由奈

姉妹都市との国際交流事業に伴う報告書

下記の通り姉妹都市との国際交流事業として、令和７年８月１４日（木）から令和７年８月１８日（月）にかけて、フィリピン共和国ダバオ市訪問を実施いたしましたので、その概要を別紙のとおりいたします。

ダバオ市海外視察報告

令和７年８月 14 日から 18 日まで、正式招待のあった DAVAO CITY INVESTMENT PROMOTION CENTER 主催のビジネスフォーラム、カダヤワン祭（フォリピンの三大祭りの一つ）に泉南市議会議員としてフィリピン共和国ダバオ市を訪問しました。本視察は、泉南市の地域課題解決や市民サービス向上のため、海外の先進事例を学び、市政に活かすことを目的としたものです。

視察では、行政組織、市民参加型の施策、教育や人材育成、観光資源の活用などを直接確認し、泉南市の施策改善に結びつく知見を得ました。本報告書では、それぞれの視察内容を要点とともに整理し、議会としての政策提言につなげます。

背景

泉南市は令和５（2023）年にフィリピン・ダバオ市と姉妹都市提携を締結し、相互の交流を通じて経済・文化・教育面での連携を進めています。姉妹都市提携は形式的な儀礼にとどまらず、地域の発展や市民生活の向上に資する具体的な成果へと結びつけることが求められます。そのため、議会としても現地を直接視察し、交流の実効性を確認するとともに、泉南市にとって学びとなる実践例を探る必要があります。

具体的な目的

1. 地域資源と産業の活用
   地元資源を最大限に活かし、地元企業や農家との連携を通じて世界市場へ展開する取り組みを学ぶ。
2. 教育・人材育成の実践例の把握
   国際人材育成や子ども・若者の主体性を伸ばす教育、地域貢献型学習など、泉南市の教育政策に活かせる先進事例を視察する。
3. 文化・観光戦略のヒントの取得
   多文化共生や地域ブランド形成、観光資源の磨き上げなど、経済・観光・文化の融合に関する知見を得る。
4. 市民・企業・行政の協働モデルの確認
   官民連携や地域内経済循環の仕組み作り、国際交流の実効性確保に向けた課題と対応策を把握する。
5. 安全管理・国際交流体制の理解
   総領事館との懇親を通じて、海外で活動する市民や企業の安全確保の重要性と、その仕組みづくりを学ぶ。

■泉南市 渡航者 計９人
山本 優真 泉南市長
堀口 和弘 泉南市市議会議長
石橋 正敏 泉南市市議会副議長
谷藤 麻由奈 泉南市市議会議員、まちづくり等成長戦略調査特別委員会委員長
伊藤 公喜 泉南市成長戦略室長
古木 孝彦 泉南市議会事務局長
森山 礼菜 泉南市行政経営部政策推進課職員
屋成 明里 泉南市教育委員会教育部人権国際教育課職員
SANTOS AVIE KENT 泉南市国際交流員（CIR）

■企業 渡航者 計８名
①株式会社山上軽鉄鋼業 山上 真利（代表取締役社長）
②泉南市観光協会 片木 洋平（会長）
③ジャパントラストサポート協同組合 今城 俊哉（顧問）
④株式会社マルユウ食品 永野 武（代表取締役社長）
⑤グローバルトレーディング株式会社 江 棟雄（代表取締役）
⑥樽井漁業協同組合 舩野 貴久（理事）
⑦株式会社ウエノ 上野 智行（代表取締役社長）※家族同行者あり
⑧株式会社 ONODERA USER RUN 川上 昂人（海外事業部担当部長）※現地合流

報告：堀口、石橋、谷藤

要点

- 地域資源（ゴム）を活かし、世界市場に展開する仕組みを学習。
- 農家と企業の協力が持続的発展のカギ。
- 泉南市でも景観や食材など地域資源を再定義し、国際市場に活用。

HEAD の工場は年間 2,400 万個のテニスボールを生産し、最終的には１億 6,800 万個まで拡大予定。原料ゴムは月 500 トンを各地の農家から調達しており、農業と工業が結びついたモデルでした。

泉南市には、海農産物・空港近接という地域資源があります。たとえば「ロングパークの景観」を観光資源化し、農産物や水産加工品を海外市場へ輸出する仕組みづくりが考えられます。特に繊維産業は関空を活かして海外展開できる可能性が高く、市議会としても販路拡大支援を検討すべきです。

ダバオの工業団地で世界へ羽ばたくテニスボール

■ゴム農園と工場が並ぶ現場

フィリピン・ダバオ・デル・ノルテ州パナボ市のアンフロ工業団地（AIE）を訪れました。
5 ヘクタールの敷地に新しい工場が立ち並び、背後には一面のゴム農園。
案内役のゴショフスキー氏が見せてくれた「ラバーカップラップ」は、
テニスボールの主原料で、私たちも驚きを隠せませんでした。

■年間１億 6,800 万個の生産計画

ヘッド・スポーツは、まず年間約 2,400 万個のテニスボールを生産し、
将来的には約１億 6,800 万個まで拡大予定。必要となるゴムは月 500
トンに上り、ミンダナオ各地の農家や協同組合から直接仕入れる仕組み。
「農業と工業の橋渡しが成長の鍵になる」と強調していました。

■世界市場へ直結

生産されたボールの 6 割は北米へ、残りは欧州、アジア、オセアニアへ
輸出されます。工場が立地する理由は、港に近いダバオ国際コンテナター
ミナル。輸出体制が整い、世界市場へ直結する地理的優位が光ります。

泉南市議会議員としての視点

◇資源を眠らせない

泉南には海農産物・空港隣接といった強みがあります。これを「当たり前」で終わらせず、観光や産業に結びつける仕掛けを市議会が議論し、政策に反映させることが急務です。ロングパークの景観や農産物のブランド化は、その一例です。

◇地元企業とともに成長を

ヘッド社が農家と協働して成長を遂げたように、泉南も市民・企業・行政が連携して地域経済を回す仕組みが必要です。議会は地元企業の技術やサービスを観光･産業政策と結びつける役割を果たさねばなりません。

◇世界を視野に入れる政策を

関西国際空港を抱える泉南は、世界と直結するまちです。インバウンド観光や国際ビジネス交流を視野に入れた政策を積極的に提案し、繊維や水産加工品などの輸出拡大を後押しすることが議員の責務です。

要点

- 表敬訪問を通じて、国際交流を「形式」から「成果」に結びつける責任を再認識。
- ビジネスフォーラムで泉南市企業が挑戦、販路拡大の課題を把握。
- 文化と産業の融合は、泉南市の観光戦略にも直結する。

セバスチャン・ドゥテルテ・ダバオ市長代行との会談やフォーラム参加は、国際的ネットワークを「市政にどう活かすか」という課題を突きつけました。泉南市の地元企業７団体が現地で製品を紹介し、国際市場の可能性を示しました。

- 市として「海外見本市参加支援」や「輸出入相談体制」を整備する。
- 文化イベントを経済振興につなげる（例：泉南の祭りを国際観光資源に発展）。
- 英語教育・国際交流授業を充実させ、若者に国際感覚を育成。

1．国際交流の扉を開く ― 市長代行との表敬

セバスチャン・ドゥテルテ・ダバオ市長代行と山本優真泉南市長の会談は、泉南市が国際都市として交流を深め、未来の可能性を探る第一歩。国際交流を「形式」ではなく「実質」へと発展させる必要性が浮き彫りになりました。

2．世界市場と向き合う、地域産業の未来を広げる ― ビジネスフォーラムの熱気

各国の投資家・自治体関係者と肩を並べて議論する場で、泉南市がどのように「世界経済の潮流」と繋がるのかを考えさせられました。地元企業の育成と海外展開を市議会から後押しする課題が見えてきます。

泉南市から参加した７つの団体が、自らの製品や技術を世界へと発信しました。これは地元中小企業の挑戦をどう支援し、販路拡大につなげるのかという課題を突きつけています。

3．文化がつなぐ経済 ― ウェルカムディナーの体験

民族舞踊や伝統音楽に彩られた交流の場は、文化が経済や人の心を動かす力を持つことを示していました。泉南市も地域文化を発信することで、観光や交流の新しい可能性を拓けると感じました。

4．人材こそ架け橋 ― 国際交流員の活躍

KENT 泉南市国際交流員（CIR）

泉南市で働く CIR（国際交流員）が、現地語で泉南を発信する姿は、人材が持つ力の大きさを象徴していました。グローバル人材の育成と活躍の場づくりは、中長期的に取り組むべきテーマです。

泉南市議会議員としての視点

強く感じたのは、国際交流を「儀礼」で終わらせず、市の発展につなげる責任。表敬やフォーラムで得たつながりを市政に生かせば、市民生活に還元できるということです。

・産業振興…「繊維や水産加工品など泉南の産業は、アジア市場で需要が高い。市と議会が連携し、海外見本市への参加支援や輸出相談体制の整備が急務です。」

・観光戦略…「ダバオで体感した“文化×経済”の融合。泉南でも祭りや海の幸を国際色ある観光資源として磨き、国内外の誘客につなげるべきです。」

・人材育成…「現地で活躍する CIR の姿から、人材こそ交流の要と実感。英語教育や留学生交流の拡充により、国際感覚ある若者を育てる仕組みが必要です。」

・市民への還元…「報告会や産業団体との意見交換を通じ、交流の成果を市民と共有することが重要。暮らしや仕事に生かせる環境づくりを進めたい。」

【3】ONODERA USER RUN ダバオセンター

要点

- 約 900 人が介護・調理を学ぶ教育拠点を視察。
- 日本語教育と多様性教育を組み合わせ、人材を育成。
- 泉南市の介護人材不足（推計 200 人超）解消に直結する学び。

泉南市でも介護人材は不足しており、今後 10 年で 200 人以上が不足すると見込まれています。ダバオで学ぶ若者と連携することは、介護現場の安定と多文化共生社会の実現に役立ちます。

【4】ストックブリッジ・インターナショナル・スクール

要点

- 幼児から高校生まで自発性を尊重する教育を実施。
- 少人数制と国際カリキュラムでリーダーを育成。
- 泉南市でも「探究型学習」や国際交流授業を拡充すべき。

課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）を取り入れた教育は、泉南市の学校でも応用可能。例えば地元漁業や環境を題材にした授業は、地域理解と創造性を両立させるでしょう。

【5】アテネオ大学ダバオ校

要点

- 17,000 人が学ぶ総合大学を視察。
- 研究だけでなく地域社会への貢献を重視。
- 泉南市でも社会人の学び直しを支援すべき。

大学は「生涯学習」プログラムを提供し、市民全体のスキル向上を支えています。泉南市でも市民大学の拡充や「リカレント教育（社会人の学び直し）」を導入することで、地域の労働力強化につながります。

③ 人材教育拠点「ONODERA USER RUN」 ― 地域を支える国際人材の力

「ONODERA USER RUN ダバオセンター」を視察。収容人数 900 人、介護や調理の実習室、最新のオンライン学習設備、寮まで備えた本格的な教育拠点です。校舎に入ると、制服姿の学生が整列して出迎え。
体育館では割れんばかりの拍手、名前の紹介、日本語での「世界にひとつだけの花」を合唱、その歓迎ぶりに胸を打たれました。
彼らは日本語を学び、日本で介護や調理の仕事に就くことを夢見ています。
泉南市でも深刻な課題となる介護人材不足の解決に直結する存在です。
国際人材をどう迎え、地域を支える力に変えていくか。
泉南市にとっても避けて通れないテーマです。

④ ストックブリッジ・アメリカン・インターナショナル・スクール ― 自発性を伸ばす教育の力

次に訪問した「ストックブリッジ・アメリカン・インターナショナル・スクール」では、幼児から高校生までの子どもたちが学ぶ環境を視察しました。
生徒たちは少人数制クラスで国際基準のカリキュラムを学び、自ら発言し、考え、行動する教育を受けます。
「グローバルビジネスリーダーの育成」を掲げる教育方針は、単なる知識習得にとどまらず、将来の起業家や社会リーダーを育てるもの。
泉南市の教育現場でも、「子どもの自発性を尊重する学び」をもっと広げていく必要があると強く感じました。
例えば地域と連携した課題解決型学習（PBL）や、国際的な交流授業を導入することが考えられます。

⑤ アテネオ大学ダバオ校 ― 学問と地域貢献の両立

最後に訪れたアテネオ大学ダバオ校は、約 17,000 人の学生を抱える名門校。
図書館や研究棟を視察する中で、IT・工学・法学など多様な分野において質の高い教育が行われていることを実感しました。
同大学は研究活動だけでなく、地域社会への貢献を重視し、生涯学習プログラムを通じて市民のスキル向上も支えています。
泉南市が掲げる「地域に根ざした人づくり」にも通じる姿勢であり、市民大学や社会人教育の充実、産学官連携による地域活性化のモデルとなると考えられます。

泉南市議会議員としての視点

教育を未来戦略に活かす責任

３つの教育機関視察を通じ、市議として強く感じたのは「教育こそが未来の基盤である」ということです。

- **国際人材の受け入れと共生**
  介護・福祉分野での人材不足を補うため、海外で学ぶ若者との交流を深め、泉南市内事業所との橋渡しを進める。
- **子どもの主体性を育てる教育**
  国際的視野を持ち、自ら考え行動できる若者を育てるため、学校教育に探究学習や国際交流プログラムを導入する。
- **市民全体の学び直し（リカレント教育）**
  社会人も含めた「学び直し」の仕組みを市政に取り入れ、地域の人材力を底上げする。

教育は一朝一夕で成果が出るものではありません。が、今回の視察を契機に「泉南市の子どもや市民が世界を舞台に活躍し、地元に貢献できる人材となる教育政策」を着実に進める責任が、私たち議員にあると痛感しました。

【6】在ダバオ日本国総領事館との懇親

要点

- 安全・経済活動を支える総領事館の役割を確認。
- 国際的に挑戦する若手外交官の姿から学びを得た。
- 泉南市も「国際理解教育」やリスク管理を強化すべき。

市民や企業が安心して海外に活動できるよう、情報提供・危機対応体制を市として強化すべきです。また、中田副領事の姿勢は「国際社会で挑戦する若者を泉南からも育てる」教育政策の重要性を示しました。

1．総領事館との懇親が持つ重み

ダバオ市滞在 3 日目の夕刻、私たち泉南市代表団は在ダバオ日本国総領事館の小野浩隆総領事、井上淳也領事、中田愛梨副領事と懇親の機会をいただきました。

この場に参加したのは、山本市長、市議 3 人、市職員 5 人。腹を割って意見を交わすことができたのは、まさに「姉妹都市提携」という特別な縁によってもたらされたものだと感じました。

総領事館は、在留邦人の安全確保や経済活動のサポートを担う、日本人にとっての心強い拠り所です。

実際、私たちの滞在中も安全面でさまざまな助言をいただき、深い安心感を覚えました。市民の生命・財産を守るという行政の根本に立ち返る機会にもなったことを付記したいと思います。

2．小野浩隆総領事の長年の経験と使命

小野浩隆総領事は、フィリピン専門家として 30 年以上のキャリアを歩まれ、マニラの大使館勤務をはじめ豊富な経験を持たれています。

「邦人の安全確保」「日本企業の支援」「文化・教育交流の促進」を使命に掲げる姿からは、日本とフィリピン、そしてダバオをつなぐ要の役割を担う責任感がひしひしと伝わってきました。

泉南市にとっても海外で活動する市民や企業を守る仕組みを理解し、その後押しをするために総領事館とのパイプを維持することは極めて重要です。

小野総領事↑

中田副領事↑

3．新進気鋭の副領事・中田愛梨さんの姿勢に学ぶ

特に印象に残ったのは、中田愛梨副領事との交流でした。

帰国子女としての国際感覚を持ち、中学生時代に NPO で開発問題に触れたことを原点に、外務省専門職を志した方です。大学在学中に外交官試験に合格し「日本の国際的信頼度を ODA を通じて高めたい」という志を胸に歩んでこられました。

副領事としての発言には、若手ながらも使命感と柔軟な視点が光り、国際社会で挑戦する姿勢は泉南市の若い世代にとって大きなロールモデルとなると確信しました。

泉南市議会議員としての視点

今回の懇親を通じ、以下のような課題意識を強く持ちました。

- **安全保障の重要性**
  海外に出て活動する市民や企業にとって、安全を守る総領事館の存在は不可欠。泉南市としても、災害時・海外渡航時の情報提供やリスクマネジメント体制を整備する必要があります。
- **若者への国際的視野の育成**
  中田副領事のように、早い段階から国際的な課題に関心を持ち、挑戦を続ける若者を泉南からも輩出できるよう、教育現場や地域活動を通じた「国際理解教育」の充実を進めるべきです。
- **姉妹都市提携の実効性の強化**
  姉妹都市関係は単なる形式ではなく、このように安全面・経済面・人材面で具体的な効果を生む基盤です。今後も交流を一過性にせず、実のある成果へと発展させる努力を続けます。

【7】カダヤワン祭り

要点

- 多民族・多文化の共生を象徴する祭典を視察。
- 行政と企業が連携し、観光と文化を両立。
- 泉南市でも「泉南ブランド」の祭典づくりが課題。

泉南市でもだんじり・農水産物・空港景観を組み合わせ、「泉南ブランドの祭典」を創出可能です。外国籍市民も参加できる行事を支援し、地域の誇りと一体感を育てることが大切です。

― 多文化共生と地域ブランド戦略から学ぶもの ―

8 月 17 日午前、ダバオ市で開催された「カダヤワン祭り」のメインイベントのひとつ、《花と踊りの大行進（パムラク・ウグ・インダク・インダク)》を視察しました。

ロハス通りからサン・ペドロ大聖堂に至る大通りには、民族衣装に身を包んだ舞踊団体と花で飾られた車が次々と登場し、地域の多様な文化が融合した華やかなパレードが繰り広げられました。

この祭典は単なる観光イベントではなく、ダバオ市に暮らす 13 の先住民族を含む多様な文化を尊重し、共生を象徴する取り組みです。また、トヨタ、スズキといった日本の大手企業を含む民間企業が協賛に参加しており、地域ブランドの国際的発信と企業誘致の視点からも大変注目すべき事例です。

1．多文化共生のシンボル

カダヤワン祭りは、先住民族の収穫祭を起源としつつ、現代では多民族・多宗教が共に暮らす都市ダバオのアイデンティティを象徴するイベントへと発展しています。多文化共生を前提とした市の政策姿勢は、外国人住民や文化的背景の異なる市民が増えていく泉南市にとっても示唆的です。特に、国籍や宗教の異なる住民が安心して参加できる「共に祝う祭り」のあり方は、地域コミュニティづくりのヒントとなります。

2．地域ブランドと観光資源の磨き上げ

この祭りはダバオ市を象徴する地域ブランドであり、市内外からの観光客誘致に大きく貢献しています。特筆すべきは、市が一体となって「収穫」と「文化多様性」を観光資源へと昇華させている点です。泉南市においても、自然環境（海・山・海産物）や歴史資源（伝統行事）を組み合わせ、市独自の「地域ブランド祭典」として国内外に発信できる可能性があります。

3．行政と民間の協働体制

トヨタやスズキといった企業の協賛は、行政が文化イベントを民間資金や国際的ネットワークと結びつける好例です。泉南市においても、地元企業や高校、さらには海外企業との連携により、観光・文化イベントを持続可能に運営していく仕組みづくりが課題といえます。

泉南市議会議員としての視点

1．**多文化共生の地域行事づくり**

外国籍住民や障がいのある方も参加できる「誰もが楽しめる地域祭典」を市として支援し、地域の一体感を高める。

2．**地域ブランドの確立**

農海産物・歴史文化を組み合わせた「泉南ブランド」の祭典を構想、国内外への発信を強化する。

3．**官民連携による持続可能な運営**

市が主導して地元企業や近隣大学と協力し、スポンサーシップや人材交流を取り込むことで、地域イベントを単なる観光にとどめず、産業振興や市民誇りの醸成につなげる。

▶カダヤワン祭り視察は、文化と産業、行政と民間、そして多様な人々をつなぐ「まちづくりの力」を再認識する機会となりました。議員として、この学びを市政に活かし、市民が誇れる地域イベントの創出に取り組んでまいります。

【８】サマール島訪問

要点

- 自然と静けさを活かしたリゾート観光地を視察。
- アクセスの良さと滞在型観光の仕組みを学んだ。
- 泉南市のロングパークを国際観光拠点に発展できる。

泉南市でも、ホテル開業に合わせて滞在型観光を推進し、「海・夕陽・食・文化」を組み合わせた観光戦略を打ち出すべきです。SNS 発信や海外市場への情報展開も急務です。

1．訪問の経緯

ダバオ市訪問の最終行程として、サマール島（Island Garden City of Samal）を訪れました。本視察は、ダバオ市側から「リゾート観光資源を日本側に理解してもらい、将来的な観光誘致につなげたい」との強い要望に基づき実施されたものです。そのため、観光資源を視察することで、泉南市の観光戦略やまちづくりの参考とすることを目的としています。

2．サマール島の特徴と観光資源

サマール島は、ダバオ市中心部からボートで 15 分程度とアクセスが良好で、静かな海と豊かな自然環境を持つリゾート地です。訪問先の「Secdea Beach Resort」では、ダバオ湾を一望できる絶景ロケーション、フィリピン料理を中心としたランチビュッフェ、プールやダイビングといった観光メニューが整備されていました。大規模で派手なリゾートではなく、落ち着いた雰囲気で「静けさ」と「自然との調和」を活かしている点であり、近隣諸国からの観光客に高い評価を得ていることです。

3．泉南市における観光振興への示唆

泉南市には「SENNAN ロングパーク」という貴重な観光拠点があります。関西空港に隣接し、夕日や飛行機の離発着という他都市にない景観資源を持ちながらも、観光客の滞在型利用は十分とは言えません。今回のサマール島での学びから、泉南市が今後進めるべき観光振興の方向性として以下が挙げられます。

- **アクセス強化と周遊性**
  サマール島は「船で 15 分」という手軽なアクセスが魅力です。泉南市においても、関空や大阪市内とのスムーズな交通導線を確保することが重要です。
- **滞在型観光の整備**
  泉南市でも 2 年後にホテル開業が予定されています。宿泊を伴う観光客を呼び込むことで、地域経済への波及効果が大きくなります。サマール島のように「静かな自然を満喫できる環境」をコンセプトに据えることも有効です。
- **食と文化の発信**
  サマール島では地元料理を観光資源として磨き上げていました。泉南市でも地元食材や郷土料理を組み込んだ「食の観光」を強化することで、滞在価値を高められます。
- **観光資源の磨き上げと情報発信**
  サマール島は SNS やロコミを通じ、国内外の観光客を惹きつけています。泉南市でもロングパークを「映える」観光拠点として再編集し、国内外へ発信する必要があります。

泉南市議会議員としての視点

今回のサマール島訪問は、「観光・リゾート視察」という一見すると遊びに見られがちな行程でした。しかし実際には、泉南市が今後直面する「観光による地域経済活性化」「海辺の資源を活かしたまちづくり」という大きな課題に直結しています。

関西空港という国際ゲートウェイを持つ泉南市だからこそ、国内外からの観光客を呼び込む潜在力は十分にあります。その可能性を具体化させるための学びを得たことは、非常に大きな意義がありました。

視察を通じ、泉南市に求められるのは「地域資源を強みに変え、国際的な交流を実益に結びつける政策」です。教育・産業・観光の各分野で、次の３点が指針になります。

1. **産業振興** ― 地元企業の海外展開支援、輸出入相談体制の整備。
2. **教育強化** ― 国際感覚を持つ子どもや社会人を育てる探究型学習・学び直し。
3. **観光戦略** ― ロングパークを中心に「泉南ブランド」を国内外に発信。

これらを市政に反映させ、市民生活の向上と地域の持続的発展を実現することが、議員としての責務です。

ダバオ市の視察を通じ、行政運営の透明性・効率性と市民参加の重要性が改めて確認できました。

特に、地域特性に応じた施策の柔軟な実施や、住民との信頼関係構築が、まちづくりの基盤として大きな役割を果たしていることが印象的でした。

泉南市においても、市民ニーズの的確な把握と反映、行政施策の効果的な評価、さらには議会としての政策立案能力の強化が求められます。

今回の視察で得た知見は、これらの課題解決や、市民サービスの質向上に資する具体的な示唆を含んでおり、今後の議会活動や施策提言に活かすことが可能です。

総じて、海外視察を通じて得た経験は、泉南市の持続可能な発展に向けた議会の役割を再認識する貴重な機会となりました。

――了――

日　時	行　動	備　考
1 日目（8 月 14 日（木））		
8：00-	集合・出国手続き	関西国際空港
10：20-13：40 (到着時刻からダバオ時間)	関西～マニラ	PR407 ターミナル移動
17：10-19：10	マニラ～ダバオ	PR2819
19：20-	空港からホテルへ	宿泊施設 Acacia Hotel Davao
2 日目（8 月 15 日（金））宿泊施設：Acacia Hotel Davao　※ダバオ市アテンド		
泉南市 9 人,領事館 2 人,事業者等 10 人,通訳 1 人　計 22 人で参加		
8：00	出発	
9：30-11：30	Anflo Industrial Estate （産業・工業団地） HEAD Sport Philippines Inc.（現地進出企業）	産業団地、企業、輸出港湾見学（公式イベント） ※天然ゴムを加工したテニスボールの製造及び輸出業
12：00-13：30	ウェルカムランチ	MARINA TSUNA
15：30-16：00	セバスチャン・ドゥテルテ市長 面会	Dusit Thani
16：00-18：30	ビジネスフォーラム (ビジネスマッチング)	Dusit Thani
18：30-20：30	ウェルカムディナー	DCIPC 主催 バステ市長同席

日　時	行　動	備　考
３日目（８月 16 日（土））宿泊施設：Acacia Hotel Davao　※泉南市独自行動		
午前の行程は泉南市９人,領事館１人,事業者等９人,通訳２人　計 21 人で参加 午後の行程は泉南市９人,領事館２人,通訳２人　計 13 人で参加 領事館訪問は泉南市９人で参加		
9：40	出発	
10：00-12：00	施設訪問・意見交換会 OUR BLOOMING ACADEMY	
12：00-13：00	昼食	
13：30-14：30	施設訪問・意見交換会 Stockbridge American International School	
15：00-17：30	施設訪問・意見交換会 Ateneo de Davao University Junior High School （アテネオ大学付属小中学校） Ateneo de Davao University, (アテネオ大学ダバオ校)	
17：30-18：30	移動➡ホテル(自由時間)	
19：00-	在ダバオ総領事表敬訪問 （夕食会）	Acacia Hotel Davao
４日目（８月 17 日（日））宿泊施設：Acacia Hotel Davao　※ダバオ市アテンド		
泉南市９人,領事館１人,事業者等８人,通訳２人　計 20 人で参加		
7：30-11：30	カダヤワン祭：バムラク&インダクインダクパフォーマンス	
12：00-15：30	ツーリズム視察：サマル島 ガーデンシティ	Discovery Samal
15：30-18：30	移動➡ホテル(自由時間)	
19：00-21：00	ダバオ市内視察、夕食	
５日目（８月 18 日（月））		
6：45-	ホテル出発 出国手続き	
8：35-10：30	ダバオ～マニラ	PR2812 ターミナル移動
14：35-19：40 (到着時刻から日本時間)	マニラ～関西	PR408
20：00	関空到着後解散	関西国際空港